

# SC400 補足説明

## お詫び

### AV1コーデックへの対応中止に関して

本製品の発売前にカタログなどで「AV1コーデック」対応と記載しておりましたが、諸般の事情により未対応となりました。謹んでお詫び申し上げます。

### <AMV4ご利用時に以下の操作をしないでください>

VideoKeeperLiteには「設定」－「録画設定」に「内部カラー処理」という機能があります。しかしAMV4には「設定」－「Lossless設定」－「Lossless録画設定」－「構成」に「圧縮設定」という以下のような機能があり、独自にカラーモードを変換できます。しかし、これはAMV4独自の機能であるためVideoKeeperLiteご利用時に関しては、設定のくい違いが発生します。誠に恐れいりますが、

- 「DY2：標準可逆（YUY2へ変換）」
- 「DY3：高圧縮可逆（YUY2へ変換）」
- 「DS3：高圧縮可逆（NV12へ変換）」

の設定は利用しないでください。

### <画面の「回転」機能使用時は「アスペクト」機能を併用できません>

VideoKeeperLiteには「設定」－「その他の設定」に「回転」という機能があります。回転機能は、画面の回転を自由に行え、録画にも反映しますが、入力映像のピクセル数に対し「1:1」でしか対応・録画できないため、アスペクトの機能は対応できません（90度単位の回転ではプレビューには反映されますが、録画には反映しません）。例えば、1920x1080の場合、回転させても必ず16:9で処理され回転されます。回転は、録画使用時でも「アスペクト」の設定は変更できますが、併用はできませんのでご了承ください。

### <Windows11におけるCPUでのMP4録画でCPU使用率が極めて高くなる事例に関して>

弊社の調査によると、Windows11パソコンで、CPUによるエンコードでMP4で録画を行うと、

- 著しくCPUの負荷が乱高下する（アプリケーションを一時的に操作できなくなるほど）
- FPSが不安定になる（画面が一定間隔で止まるなど）の症状

を確認しております。

この症状は、**VideoKeeperLiteのプレビュー画面が、デスクトップ画面で最も優先度が高い場合に発生します**。なお、この症状はWindows10では確認されていません（性能が著しく低いパソコンを除く）。

VideoKeeperLiteには、念のためGPUによるエンコード支援を行わない設定もご用意しておりますが、このような著しいFPSの低下を防ぐため、**原則MP4による録画に関してはGPUによるエンコード支援は「必須」とさせていただきます**。

Windows11にて旧型やエントリー機種のグラフィックスボードやGPUをご利用のお客様はほとんどいらっしゃらないと思いますが、NVIDIA社GTシリーズ(GT7x0/GT1030などの低価格モデル)、AMD社RadeonシリーズなどでVCE未対応機種(RX6400/6500シリーズ)、およびQuickSyncVideo機能を持たないGPUを搭載したintel社製のCPUでは、Windows11で安定した録画ができません。

### <「特殊録画設定の状態で録画」で録画を継続できない映像信号>

VideoKeeperLiteには「特殊録画設定の状態で録画」という機能が「設定」－「録画設定」に実装されていますが、この機能のうち「映像喪失時継続録画」と「設定解像度優先（解像度変化録画）」の機能は「HDMI」と「ビデオ」、「コンポジット・ビデオ」の入力をご利用いただけます。「複合同期信号のアナログRGB」や「コンポーネント・ビデオ（Y,Cb,Cr）」では利用できません。

### <使用していないグラフィックスボードのドライバーはアンインストールしてください>

現在使用していない（または過去に使用していた）グラフィックスボードのドライバーやサポートアプリケーション（常駐アプリケーション）は、録画時のパフォーマンスの低下につながる恐れがありますので、できるだけパソコンからアンインストールして頂くようお願いいたします。

### <インテル®ドライバー & サポート・アシスタント をご利用のお客様へ>

インテル® ドライバー & サポート・アシスタントをご利用の場合、録画を行っている時、CPUリソースの低下により、録画のfpsが定期的に低下する、録画が不安定になるなどの症状が発生する場合があります。

### <PC/AT互換機の日本語DOS映像「720x400」が「640x400」で認識されてしまう>

PC/AT互換機のDOS（DOS/V、MS-DOS含む）の日本語モードの解像度「720x400(31kHz,70Hz)」には現在対応していません。これらの解像度の映像を入力すると「640x400」と認識されます。NEC PC-9821のDOS画面「640x400(31kHz,70Hz)」へ優先して対応するため、PC/AT互換機のDOSの日本語モードは未対応としました。

Rev. 20250818

### <VideoKeeperLiteを使用中にパソコンのディスプレイの解像度を変更した場合>

VideoKeeperLiteが起動しているパソコンで、ディスプレイの解像度を変更した場合、恐れ入りますが一度VideoKeeperLiteを再起動してください。このような操作は、通常はあまり行わないと思いますが、プレビュー・ウィンドウのサイズが変化してしまうため再起動が推奨されます。また、VideoKeeperLiteが起動している状態で、パソコンが省電力モードでスタンバイから復帰したり、ディスプレイの電源がオフから復帰した際もプレビュー・ウィンドウのサイズが変化するため、VideoKeeperLiteの再起動が推奨されます。なお、弊社ではVideoKeeperLiteご利用に際しては、原則パソコン側の電源設定を以下の様に設定してご利用いただくことをお願いしています。

- ・高パフォーマンス
- ・ディスプレイの電源を切る：適用しない
- ・コンピューターをスリープ状態にする：適用しない

### <AMD社GPU「Radeonシリーズ」のGPUによるエンコード支援「VCE」に関して>

#### ●1080p映像のキャプチャーに関して

VCEに対応したGPUでも、VCEの世代によってエンコード性能が低いものがあるため、1080p映像をキャプチャーすると、GPUのエンコード処理能力が100%となり、FPSが安定しない場合があります。GPUの使用率はWindowsの「タスクマネージャー」－「パフォーマンス」－「GPU」でご確認いただけます。ご利用のGPUの処理性能にあわせて入力解像度を選ぶ（制限する）必要があります。

#### <参考>

- ・R7世代の250など：GPUでMP4録画を行う際は1080iか720p以下の解像度でご利用ください。
- ・RX世代の550など：GPUでMP4録画を行う際は1080pで60fpsが可能（VCE 3.4対応）弊社推奨。
- ・RX6400/6500シリーズはVCEに未対応です（非推奨）。

#### ●VCEでのエンコードは、内部カラー処理「YUY2」モードでのみ対応です

VCEご利用時は「内部カラー処理」は「YUY2」モードのみ使用可能です。GPUやVCEの世代によっては4:4:4のエンコード機能を持つ機種もありますが、現在のVideoKeeperLiteは「RGB」モードに未対応です。

### <録画が度々停止するため、録画に適さないゲーム機に関して>

サターン、PlayStation/2シリーズが販売されていた時代のゲーム機では、ゲームによってゲーム中（またはデモ画面）で解像度（240p[ノンインターレース(プログレッシブ)]/480i[インターレース]）が度々変化するものが多くあります。このような解像度変化の多い映像は、録画を継続できないため、どうしても録画を行いたい場合は、「特殊録画設定の状態で録画」－「設定解像度優先」＋解像度変化録画」をご利用ください。※「解像度変化録画」は万能ではありません。映像の状態によって正常に機能しない場合があります。※録画を継続できた場合も解像度変化時に音声や映像にノイズが混入したり、映像と音声にズレが発生する場合があります。参考：特殊録画設定の状態で録画－「映像喪失時継続録画」はアナログRGB（複合同期信号）やコンポーネント・ビデオ信号に対応できません。

### <映像を回転して録画したとき、映像や音声にノイズが混入する>

映像を回転した状態での録画は、画像処理や解像度の増加によってパソコンへの負荷がきわめて高くなります。このため、録画時に映像や音声にノイズや点滅（または途切れ）が常発生したり、フレームレートが著しく低下する場合があります。

### <以下の機能はサブデバイス（2画面表示の時の右の画面）では利用できません>

サブデバイスでは「OSD機能（文字のオーバーレイやクロマキー、PinPなど合成した画面の表示）」、「特殊録画設定の状態で録画」、「回転」はできません。また「特殊録画設定の状態で録画」がオンのときはサブデバイスの録画には対応できません。

### <2画面表示の時、メインデバイスとサブデバイス同時に使用できない機能があります>

「どちらか一方のデバイスでLosslessコーデックで録画を行っている場合、もう一方のデバイスではLosslessで録画できません（「非圧縮AVI」は双方録画可能ですが、ストレージのリソース不足により、お勧めできません。）」、「1台のUVC機器やWebカメラを2画面で同時に表示することはできません。これらのデバイスは左/右どちらか一方の画面でしか利用できません(OSD機能による画面合成を除く)」。

### <インターレース映像録画時(MP4)のキーフレーム設定に関して>

VideoKeeperLiteにはMP4録画時の「キーフレーム」を設定・変更可能ですが、インターレース映像(480i/576i/1080i)では「30」固定となります。

### <アンチウイルス・アプリケーションとの相性に関して>

アンチウイルス・アプリケーションの「ノートンアンチウイルス」や「Avast」を使用している時、インストール時にウイルス警告が度々表示されるため、インストール作業が度々中断される（Avast研究所にファイルが何度も送信される）など。

お客様のパソコンにノートンアンチウイルス、またはアバスト（Avast）がインストールされている場合、本製品のドライバーやコーデック、アプリケーションのインストールの過程において、何度もウイルスやマルウェアの恐れがある旨のメッセージが表示されますが、問題はございません。弊社が提供するドライバーやコーデック、アプリケーションは、お客様に提供する前に、ノートンアンチウイルスでファイルのウイルス・スキャンを行っております。ご安心ください。警告が表示されてもインストール作業は中断せず、根気強く最後までインストールを行ってください。くれぐれもインストールを途中で中断しない様お願い致します。なお、ノートンアンチウイルス、またはアバスト（Avast）の働きによって、本アプリケーションの一部のファイルが強制的に削除されるなどし、VideoKeeperLiteやMicomsoftVideoChekerが起動できない（MicomsoftVideoChekerの場合は動画を再生できない）場合があります。このような場合、ノートンアンチウイルス、またはアバスト（Avast）と本製品は同時にご利用にならない可能性がございますので、これらのアンチウイルスソフトがインストールされていない環境、または別のパソコンにインストールして動作をご確認ください。

### <最新のエンコード支援機能を持つGPUに関して>

「Intel Arc B570/B580以降のGPUを搭載したグラフィックスボードやパソコン」、及び「NVIDIA社 GeForce RTX5000シリーズ以降のGPUを搭載したグラフィックスボードやパソコン」、「Radeon7000/9000シリーズ」に関しては、現在社内に機材が無いためGPUによるエンコード支援の動作（Intel®QuickSync Video及びNVIDIA NVENC、AMD VCE）を確認できておりません（2025年8月現在）。

※VideoKeeperLiteの「設定」－「キャプチャー設定」－「GPU支援機能」－「GPU確認」ボタンでも識別できないと考えられますので、ご利用の際は手動で「GPU支援機能」を設定して動作をご確認ください。

### <1台のパソコンで2個のSC400を使用されるお客様へ>

現在1台のパソコンで1個のSC400をご利用になっていて、追加でもう1個のSC400を同じパソコンに増設したい場合(1台のパソコンでSC400を2個使用する場合)、VideoKeeperLiteの「設定」－「その他の設定」－「メインデバイス選択」及び「サブデバイス選択」でデバイスを設定してください。また、逆に現在2個のSC400をご利用で、1個を取り除いた場合も、「メインデバイス選択」または「サブデバイス選択」のデバイスを再設定してください。※同じデバイスが2台あると認識できない（デバイス番号0と1が変化する）ため必ず再設定が必要です。

### <ロスレス（AMV4など）や非圧縮AVIで長時間録画していると音声のみ遅延する>

入力映像の解像度が高くなるにつれ、音声が遅延するリスクが高くなります。実際には、音声が遅れているわけではなく、映像のデータがあまりにも膨大であるため、ストレージへの録画の際に、映像の書き込みが間に合わずドロップしているためと考えられます。このため動画ファイルを再生した際、音声の尺に対して映像のフレーム数が少なくなっているため、映像が速く進みます（つまり、映像が想定より短くなっている）。転送帯域がSATA3を超えていなくても、ハードディスクやSSDの書き込み性能が追いつかない場合、映像がドロップします。解決策としては、入力映像の解像度をより低いものに変更するなどし、映像の情報量を減らすことです。なお、映像のドロップに伴い、音声遅延だけでなく音声にノイズが混入する場合があります。

### <OBSで発生する表示の違いについて>

VideoKeeperLiteを使用すると問題ないが、OBSを使用して表示・録画すると、一部の解像度(240p/288pなど)では直方向に映像が圧縮されて表示されてしまうものがあります。本来OBSの方が正しい表示なのですがVideoKeeperLiteでは、画面の比率を調整するために、アプリケーション側で走査線を2倍にしています。OBSにはこの2倍にする機能が無いため、垂直方向に圧縮して見えます。このような場合はOBS側で画面の表示幅を任意で調整するなどしてください。



### <ロスレス（AMV4など）や非圧縮AVIでNVMe仕様のSSDに安定して録画するには>

パッケージや取扱説明書（活用編）に記載しておりますが、NVMe仕様のSSDは大容量のデータを一時的に平均的な速度で記録（書き込み）できません。NVMe仕様のSSDへの録画（システムドライブ、録画専用ドライブにかかわらず）は推奨していません。

### ロスレスコーデック時 (AMV4など) や非圧縮AVI録画時に要求されるストレージ性能 (参考)

非圧縮AVI/AMV4で録画する際の推奨ストレージ	SATA3 ハードディスク		SATA3 SSD		NVMe SSD	
	非圧縮AVI	AMV4	非圧縮AVI	AMV4	非圧縮	AMV4
解像度						
コーデック	非圧縮AVI	AMV4	非圧縮AVI	AMV4	非圧縮	AMV4
内部カラー処理	RGB	YUY2	RGB	YUY2	RGB	YUY2
720x240p/720x288p	△	○	○	○	○	○
720x480i/720x576i	△	○	○	△	△	○
640x480p~720x480p/720x576p	×	△	△	○	×	○
800x600p/1024x768p/1280x720p(各60p) または1920x1080i	×	×	×	○	×	○
1280 x 768p/1280x1024p(各60p)	×	×	×	○	×	△
1920x1080p(60p)	×	×	×	×	×	×

※ハードディスクを使用する場合はWesternDigital社のCMR方式で7200rpmのHDDを推奨します。※キャッシュ(DRAMによるキャッシュ)などの調整が必要になる場合があります。

※ハードディスクでの録画でドロップが多いと感じた場合はSATA3方式のSSDをご検討ください。ドロップが増加すると、映像や音声に乱れ（ノイズ）が発生したり、映像と音声がズレてしまうためシークバーの尺が合わなくなります（映像の再生が終わっているのに音声だけが再生され続けるなど）。

○＝概ね安定して録画ができますが、画面全体が砂嵐のような映像や水面がきらめくような映像では独自の圧縮効果が得られない場合があります、ドロップが発生することがあります。△＝録画はできますが、映像データの容量が大きすぎる場合や、ストレージの仕様や制限などにより安定録画（全般的に安定しなかったり、長時間の安定録画など）ができません。

×＝フレームレートの低下やドロップが激しいため、安定した録画はできません。<参考>録画後の動画ファイルに音声にノイズが混入している場合、ストレージへの記録の際、映像のフレームのドロップが増加していることが原因である可能性が高いと考えられます。

### <ドライバーのカスタムプロパティにおける調整機能に関して>

カスタムプロパティは通常ではあまり発生しない問題や、特殊な事例に対処するための特殊機能です。カスタムプロパティの操作によって不具合が発生したとしても弊社製品の保証やサポートの範囲には含まれませんのでご了承ください。お客様の責任においてご利用ください。

[裏面にも解説があります>>>](#)

A.表示位置のズレを微妙に調整する機能 (Video Offset) [\[本書裏面参照\]](#)

B.アナログRGB映像 (VGA) で特定の解像度で発生する画面にピンク色のノイズへの調整 (CLK SKEW) [\[本書裏面参照\]](#)

C.特定の家庭用ゲーム機のコンポジット・ビデオ映像で、画面の表示位置調整 (Video Offset) を調整すると、画面の上部がゆがむ映像に対する調整機能 (VCR MODE) [\[本書裏面参照\]](#)

D.「TTL方式の複合同期(TTL Csync)」を出力する特殊な業務用機器のアナログRGB映像用の設定 (SOH)

家庭用のゲーム機器のRGB信号の多くは「75Ωなどのビデオ方式の複合同期信号」を使用していますが、業務機器においてはTTL方式の複合同期信号 (HsyncとVsyncを混ぜたもの) が存在します。

これを本書では「TTL Csync」と記載します。このような信号は機器ごとに異なり、信号規格が無いため動作保証はいたしかねます。これらの同期信号に関しましては、お客様のご理解のもと、自己責任でご利用いただくこととなります。

なお、使用方法は提供されたパラメーター情報を設定していただくか、事前に保存したパラメーター・ファイルを使用する（インポートする）ことで利用できます。

本件に関する調整方法や資料類はWebページにてご確認ください。なお入力の前に、アナログRGB映像信号の信号レベルが75Ωで0.7Vp-p程度であることをご確認ください。

※これらの映像は特殊なため表示するまで、何度もプレビュー映像が点滅するなどする場合があります。この機能は万能ではなく、機器によっては正常に映らなったり、調整しきれない場合があります。※この機能はドライバーを直接操作するため、慎重に扱う必要があり、当然保証規定の範囲には含まれません。※TTL方式のRGB映像信号には対応できません。

具体的な操作方法は、弊社Webページにて参考資料をご確認ください。

## <ドライバーのカスタムプロパティとは・・・>

カスタムプロパティはドライバーを直接操作することができます。  
しかし、カスタムプロパティは必ずしもVideoKeeperLiteと同期していません（また、ドライバーに機能はあるが、構造上アプリケーションから制御できない機能もあります）。  
解説に記載されている以外の機能を操作すると、製品が正常に動作しなくなる場合がありますため、本書に記載されている機能のみ操作してください。

## <ドライバーのカスタムプロパティ各機能の解説>

### A.表示位置調整 (Video Offset) 機能に関して

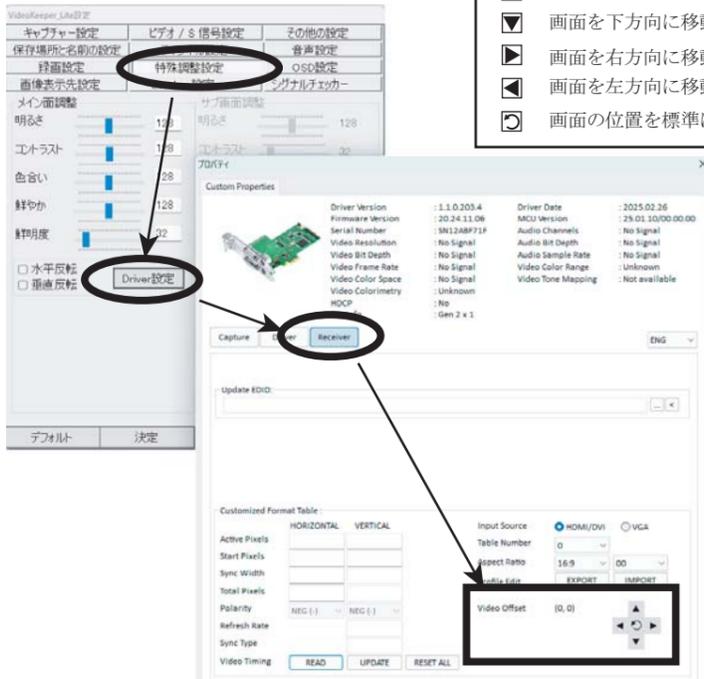
同じ解像度でも機器の違いによって、微妙に画面の表示位置が異なる映像があります。  
このような微妙なズレを調整する機能が「表示位置調整 (Video Offset)」です。  
あくまで微調整用であるため、大きなズレには対応できない場合があります。可能な範囲内で調整していただくこととなります（調整しても効果のない映像もあります）。  
※表示位置は現在VideoKeeperLiteで使用している解像度に対して行われます。

#### <VideoKeeperLite から「カスタムプロパティ」を操作する方法>

- ①「設定」をクリック。
- ②「特殊調整設定」をクリック。
- ③「Driver設定」をクリック。
- ④「Receiver (レシーバー)」をクリック。
- ⑤「Customized Format Table」の「Video Offset」の操作ボタンをクリックして調整してください。
- ⑥表示位置の調整を完了する場合は「OK」ボタンを押してください。

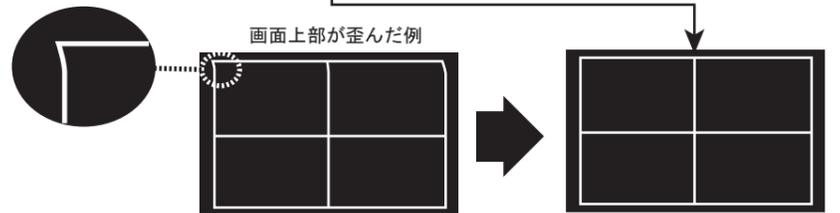
※大幅に調整すると、画面が乱れたり、表示位置がさらにズレてしまったり、映像がフリーズする場合があります。  
※コンポジット・ビデオで表示位置調整を行った際に、画面の上部が歪む場合は、「ページC2」を参考にしてください。

- #### <操作ボタン解説>
- ▲ 画面を上方向に移動します。
  - ▼ 画面を下方向に移動します。
  - ▶ 画面を右方向に移動します。
  - ◀ 画面を左方向に移動します。
  - ⌂ 画面の位置を標準に戻します。



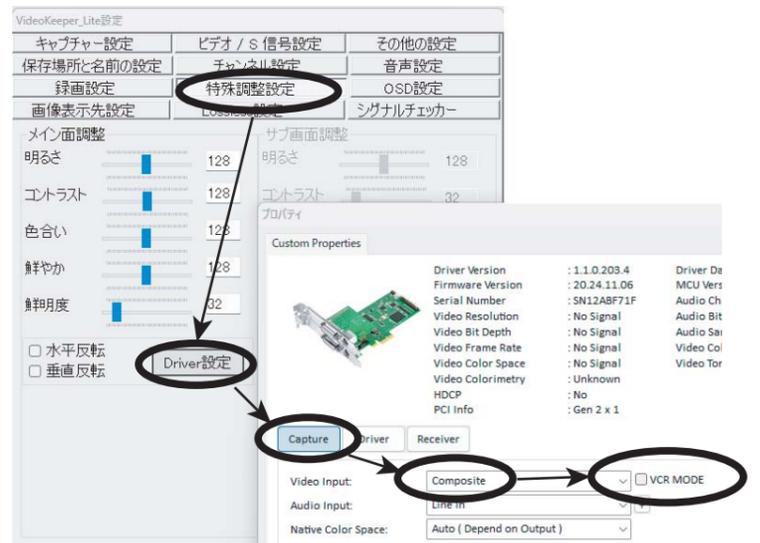
### C.特定の家庭用ゲーム機の「コンポジット・ビデオ映像」で、画面の表示位置 (OFFSET)を垂直方向(上下方向)調整すると、画面の上部が水平方向に「ゆがむ」映像に対する調整

特定のゲーム機のコンポジット・ビデオ映像では「表示位置調整 (ページC1)」を行うと、画面の上部が水平方向に若干歪んでしまうものがあります。  
このようなときは「VCR MODE」を「オン」にすることで、改善できる場合があります。



#### <VideoKeeperLite から「カスタムプロパティ」を操作する方法>

- ①「設定」をクリック。
- ②「特殊調整設定」をクリック。
- ③「Driver設定」をクリック。
- ④「Capture (キャプチャー)」をクリック。
- ⑤Video Inputが「Composite (コンポジット・ビデオ)」であることを確認後、「VCR MODE」のチェック・ボックスをクリックして「オン」にします。
- ⑥表示位置の調整を完了する場合は「OK」ボタンを押してください。



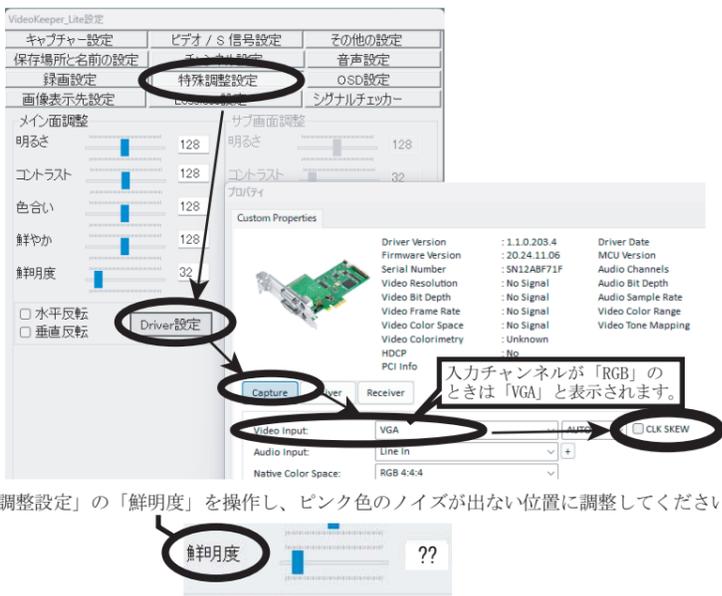
※「VCR MODE」が「オン」でも、「表示位置調整(ページC1)」を再度行うと再度歪みが再発するため、その際は「VCR MODE」を「オン→オフ→オン」のように再設定する必要があります。  
「VCR MODE」は「表示位置調整(ページC1)」が完了した後で設定することをおすすめしています。

### B.アナログRGB映像 (VGA)で特定の解像度で発生する画面にピンク色のノイズへの調整

特定のパソコンの解像度や機器において、アナログRGB映像で、キャプチャー後の画面に、ピンク色のノイズのようなものが表示される場合があります。  
これは、主にVideoKeeperLiteの「内部カラーモード」が「RGB」モードのときに視認できます。  
（「YUY2」モードでも発生していると思われるのですが、色解像度が低いために視認できないだけだと考えられます）。  
なお、ピンクノイズの原因はアナログ映像をサンプリングする際に発生する「ピクセルクロックの位相 (スキュー) のズレ」が原因です (位相[スキュー]がズレることは希です)。  
通常「位相 (スキュー) のズレ」は調整できませんが、以下の操作を行うことで「鮮明度」の項目から調整することができるようになります。  
なお、対応可能な映像信号は「RGB (VGA)」のみとなっています。

#### <VideoKeeperLite から「カスタムプロパティ」を操作する方法>

- ①入力チャンネルは「RGB」を選択。その後「設定」をクリック。
- ②「特殊調整設定」をクリック。
- ③「Driver設定」をクリック。
- ④「Capture (キャプチャー)」をクリック。
- ⑤Video Inputが「VGA (RGB)」であることを確認後、「CLK SKEW」のチェック・ボックスをクリックして「オン」にします。
- ⑥表示位置の調整を完了する場合は「OK」ボタンを押してください。



- ⑦「特殊調整設定」の「鮮明度」を操作し、ピンク色のノイズが出ない位置に調整してください。
- ⑧表示位置の調整を完了する場合は「OK」ボタンを押してください。

※「位相 (スキュー)」は、むやみに調整しないでください。画面に「ピンク色のノイズ」が発生した解像度をキャプチャーする際に利用してください。

### D.「TTL方式の複合同期(TTL Csync)」を出力する特殊な業務用機器のアナログRGB映像用の設定 (SOH)

TTL Csyncの対応方法は操作が複雑であるため、弊社Webページにて資料を公開しております。